竜丘村公民館報

発行人 木下 右治
編集人 編 集 県
印刷所 信州印刷 KK

助役さん決る
今村玄吾氏昇格

前助役関島芳馨氏が三月二十三日を以て辞職したため、後任助役の選出を急いでいたが村長と村会の意向が役場総務課長今村玄吾氏にあつまり、六月四日同氏が新助役として正式決定した。

今村氏談

このたびはからずも皆様の御推薦を得まして助役に就任致しました。

もとよりその器ではありませんし、特に前途には地方制度の確立整備や、町村合併というような歴史的な大問題が横たわつているとき、尚更その感が深いわけであります。

私は長らく役場事務にたずさわつていたということのみで、むしろそのことの為に「まずい」面がありはしないかと心配致しております。然し村長様の御指示に従い議会の御意向に添いまして、一層努力して行く覚悟で御座います。

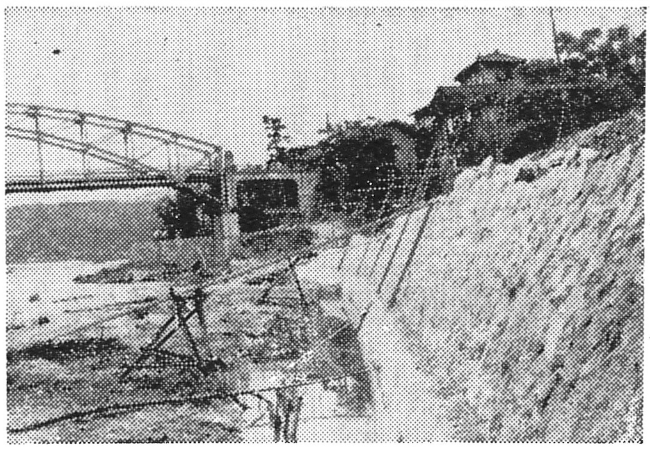
その上更に村民皆様の御指導御鞭撻を戴きたくお願申しあげる次第で御座います。

天竜護岸工事進む
天龍様より青麻神社まで

天龍橋より北へあおぞう様まで一三〇米の堤防工事が完成されようとしている。

これは建設省の二十八年度天龍川災害復旧工事として村長が努力して獲得した工事で、その経費は四〇五万円である。これは国と県とで負担するものであるが、その他に地元工事として非常時に際する消防車道路が附設される。これは地元時又が主体で村としても消防施設として若干の負担をする事が村会で認められている。

この堤防が完成すれば、新川以北の護岸工事が完成するわけで、壮観であり水害防止は勿論のこと又観光の点からいつても実に見事な施設となるわけである。



＝工事現場＝

論説
分館活動

下から盛りあがるものを結集し統合する機関が公民館の本質である。住民の要求はちいさな集会の話合から出発し、その申し合せから実践化される。そういう意味で公民館運動は分館活動が極めて重要な意味を持つ。

特に生活改善運動（冠婚葬祭という狭義のものでない）は生活に即したものであるから、分館活動によつてのみ実践化されるといつてもよい。

最近生活改善運動が提唱されているが、それが実行されている事例を二、三あげてみると豊丘村の山田分館（戸数四一）に於ける婚儀改美は徹底的に行われ、喬木村の上平分館（戸数一一〇）は環境衛生に力をそそぎ蠅と鼠の駆除を徹底的に実行している。富草村雲雀沢分館（戸数四一）では農地改革を合理的に推進しているとの事である。これは特例に過ぎないが広い生活の全分野から切実な課題を設定し各分館が独持の運動を展開し合うべきである。

長野県教育委員会社会教育課から出した「新生活建設運動展開の手引」に

1、生産の増強に努めよう
2、生活の科学化を図り因襲を打破しよう
3、社会福祉を推し進めよう
4、環境の改善を図り保健衛生の関心を高めよう
5、豊かな教養を身につけよう

とあるが、これらの中から地域の要求に応じた具体的な問題をとりあげれば問題はいくらでもある筈である。ことはそれを実践するか否かにかかつている。

過日下伊那公民館運営協議会で分館活動のあり方につき研究会が開かれたが、その時の問題をあげてみると、

①分館活動の根本は分館役員に人を得ることである。一般に年令を若くすることがのぞましい。役員の任期は二年がよい。

②分館長は区長というような行政上の代表者の兼任を避けて、社会運動の適任者をあげるべきである（本村の分館長は本年より区長兼任ではなく、専任の分館長が出来たがこれは前進の第一歩である）

③分館費は独立した経理を持たねばならない。（本村では時又分館が数年前から独立した経理を持つている）

④分館独自の地域性と生活要求に立脚した独自の課題をとりあげてそれを徹底的に実践化すること。

等に要約することが出来る。

本村の各分館が生活改善運動により立ちあがらん事を念願する次第である（木下）

保健室より

又赤痢の流行期がやつて来ました。食事の前には必らず手を洗いましよう。

本年産米集荷方法の概要決る
＝事前売渡申込制＝

本年産米の集荷については現行の食糧管理法を改正することなく、事前売渡申込制をとつて従来の供出割当制度に代え①生産者の自主的売渡しの申込みと②集荷業者の活動促進を基として③更に関係機関及び関係団体の積極的な協力に依り、現行の月十五日配給量を確保する方針である。この集荷はどうして行われるかと申しますと、政府で本年の米の生産見込量と配給所要量を睨み合わせて集荷予定数量を決め、石当りの政府買入価格を決めた後に於て、全国集荷団体別に割当されます。全国集荷団体は中央米穀売渡推進協議会（この外県郡市町村に米穀売渡推進協議会が出来る）の意見を聞いて、都道府県集荷団体別に集荷予定数量を割当る。この際生産見込量は事前割当であるため平年作の生産量を見込んでの割当となります。

都道府県集荷団体は都道府県の米穀売渡推進協議会の意見を聞いて郡市別に、郡では同様に各指定集荷業者別に集荷予定数量の割当があります。本村の指定集荷業者は農協が行つており、農協へ本村集荷予定数量が割当となり、村米穀売渡推進協議会の意見をきいて部落別に集荷予定数量の割当を定め当協議会や農事協同組合長の皆さんの協力を得て生産者から売渡申込数量が集荷予定数量より下らない様適正な申込みをする様努めることになつております。

尚前述した通り売渡す相手は政府となつており、個人間の自由売買は出来ないので自由販売等と誤解しないこと。

◎売渡申込み

政府は米価を決定後売渡申込みの受付けを開始することになつており、県としては六月二十一日より七月十日までとありますが国会での米価審議もあつて七月一日頃から七月十五日頃になる模様です。詳細は後日通知しますがこの期間中に申込みをしないと申込みに対する奨励金（石当二〇〇円）が付かないことになります。又申込みをしたからといつてその年の作柄によつて予定数量が出荷出来ない場合は差しつかえない事になつております。

◎概算払い

申込後概算払いとして一俵八〇〇円—一、〇〇〇円程度の概算払いがありますが、成るべく消費的支出にしない様にして農業手形の返済に充て又は預金する様国では望んでいる。

◎現品の授受は従来通りの方法

◎買入代金の支払い

概算払いを受けた生産者が米穀を政府へ売る場合の買入代金の支払いは概算払いの総額を差引いて精算されます。この際例えば五俵申込みして最初の二俵出荷した場合二俵の買入代金から概算総額の五俵分を差引く事になつております

◎奨励金

申込期間内に申込みをした数量に対する奨励金と早場米に対する数量に対する期間奨励金はつく模様で、超過供出奨励金等はつかない様です。

◎代行機関

指定集荷業者である農協では政府の委託を受けて売渡申込みをした生産者に対して、概算払いや精算払いをしてくれます。又概算払いを政府へ返納しなくてはならない場合、生産者に代つてその金額を政府へ納付する等の仕事を行つてくれます。

（役場係）

新消防団長 長沼保治氏

前島秀夫氏が村議会議長となつたので消防団長を辞任し、長沼氏が新団長となり副団長として下平欽一氏が登場した。

竜丘（時又）商工会役員

会 長理事	伊原 春男
副会長 〃	松村 新八
副会長 〃	伊原 悦雄
総 務理事	高木 関
会 計 〃	塩沢 銀一
厚 生 〃	沖田 一郎
商 業 〃	原 光一
観 光 〃	橋本只四郎
工 業 〃	塩沢光次郎
庶 務 〃	田畑 田一
監 事	田中 紀
〃	伊原 五朗
駄科支部長	林 正司
桐林支部長	下平 秀夫

○

木下公民館長は下伊那公民館運営協議会の副会長となる。

○

今村助役自治大学に入学

今村助役は自治大学三種学生として、全国町村会から五十名選抜された一員として上京、六月二十七日から約一ケ月間、町村自治につき勉学する。

時又を語る座談会
六七十年前の時又

本村公民館及伊那史談会主催にて去る五月二十八日に、時又長石寺において六七十年前の時又を語る座談会を開いた。

飯田より原田島村氏夫妻本村の伊藤祐一氏、下平三七氏、伊藤祐哉氏、岡村哲氏等二十五名が集つて懐旧談に花を咲かせた。

下条街道南山街道のまじわる当時の時又の中心地長石寺の周辺の情況につき談合し、出街道に沿う天龍川、新川の周辺の情況につき話し会つた。明治十四年に於ける時又村は八四戸であつたというし現在の町のあたりは全部田圃であつたというから、今にくらべてみて隔世の感のするのはもつともである。

次に県道の開通した明治二十二年頃の話から馬車自動車に発展して行く過程の話で終つた

今後もかような座談会を開くことを申し合せ、ささやかな懇談会に歓談して解散した。

人事

林村長は下伊那町村会長会の経済部長となる。

戸籍の窓口

45月の届出

◎死亡

部落	氏名	満年令	世帯主
桐林	中島金一郎	八〇	正志
上川路	杉本くにへ	七九	晃
桐林	岡村 勝吉	二九	京之助
時又	伊原 勇	七	文男
駄科	伊藤 議	六七	悦
桐林	中島猪三雄	三二	せん
駄科	下平 ミヱ	七三	重人
駄科	鈴木 花子	〇	馨
駄科	市瀬 文三	五七	武
駄科	大前 ゐん	七九	春実

◎婚姻

夫	妻
時又 伊原靖郎	名古屋 関根米子
下久堅 久保田邦人	時又 山田泉
時又 伊藤甲子雄	川路 林かずゑ
上片桐 下平幸雄	桐林 佐々木秀子
長野原 塀和勇	下久堅 梶原利子
時又 前沢武郎	箕輪 田中早苗
駄科 木下靖己	下久堅 山下信子
桐林 中島達雄	喬木 元島たね子
長野原 北沢正志	神奈川 深瀬トキ子
駄科 木下芳雄	飯田 原千代子
駄科 上松孝善	伊賀良 西村きみ子
飯田 橋爪 武	時又 馬島幸子
駄科 下平 昭	上郷 下島英子
前の原 伊原啓二	駄科 熊谷照子
川路 窪田三郎	桐林 林よし子
龍江 松島隆夫	時又 林 智子
駄科 中島信孝	大下条 城田愛子
時又 下田一郎	大下条 佐々木玲子
駄科 代田 稔	広島 木村ハツヨ
伊賀良 矢沢義平	駄科 関島たつゑ
桐林 中田日出人	鼎 小林千佐子
東京 松枝秀幸	駄科 下井田美智子
桐林 林 安男	大鹿 小椋とよし
駄科 牧島宏次	埼玉 長谷部文子
智里 林惣七	長野原 伊原シゲ子
伊賀良 太田仁助	駄科 吉川はな
下条 古田勝人	長野原 小林はつよ

◎出生

部落	氏名	保護者
駄科	近藤 宗子	決
駄科	大沢 進	茂雄
桐林	林 邦彦	悟
駄科	中平とよ子	貴剛
桐林	中島富美子	達夫
桐林	原 範子	勝
桐林	塩沢 正巳	幸吉
時又	岡島 陽子	信雄
時又	山田 一昭	明
駄科	鈴木 花子	馨
上川路	田中 和子	憲一
上川路	笹岡 宏行	康男
時又	橋爪 昭美	昭雄
駄科	下平 昇	元治
桐林	中島 悦子	美佐男
時又	林 多香子	章夫
桐林	今村 隆雄	豊
上川路	市瀬 和恵	豊作

上成績だつた春蚕

掃立以来の好天と、手入の全きにより本村の春蚕は順調な経過を辿り、十七日から供繭が始まり、二十日の第一回受入れ終了日までに九千三百五十貫の繭が持込まれた。仮渡金は貫当り千二百円が支払われることになり、千二百二十万円の農家収入となる勘定。尚次回受入が二十二日から始まる。

第二回米作多収穫競進会要領
申込みは八月三十一日までに

昨年第一回の競進会を開催したが、相当の成績を示すことが出来たので、本年度も開催することにしたから多数御参加下さい。

一、目的

この会は米作収量の増収と技術の向上を図り食糧増産に寄与するとゝもに、増産記録達成者及び技術優秀者を選定し、之を表彰することを目的とする。

二、出品参加資格

参加資格は、村内に現住する水田耕作農家であつて、競作田は原則として一圃場一筆で参畝以上で、品種、耕作法は同一であること。

三、受賞者

賞状及賞品を授与する。

㈠多収穫者 六名

一等一名 七〇〇円程度の農具
二等二名 五〇〇円程度の農具
三等三名 三〇〇円程度の農具

㈡技術優秀者 四名

①生産規準より増収率の高いものから順位をきめる。
②多収穫受賞者を除いて出品者中より選定する。
③賞品は二五〇円程度の農具

四、参加申込

①八月三十一日までに農協指導部へ申し込むこと。
②申込書の形式は次のよう

様式一号

参加申込書
部落名大字 区 組合
氏名 ㊞

昭和三十年度龍丘村米作多収穫競進会の趣旨に同意し、関係書類を添えて申込みます。審査委員会の決定については異議はもうしたてません

昭和三十年 月 日
龍丘村米作多収穫競進会長殿

様式二号

稲作計画概況表
部落名大字 区 組合
氏名 ㊞

一、耕作水田面積
二、競作田の面積所在地
①場所地番
②面積 反 畝
③品種名
④収穫予定日 月 日

編輯後記

○暗い梅雨雲が狭空を覆い幾日か続いた雨に、増水した天龍川の瀬音を聞きつつ編集を終えた

○猫の手も借りたい様な忙しい毎日ではあつたが、収繭も終り麦刈田植も一段落つき、ホツトした所へ館報をお届けします。出来栄えの如何を気にしつつ。

○今月は投稿原稿が意外に多く、次号へ割愛したのもあり寄稿者に深くお詫び申します。

○皆様が館報にお寄せ下さる原稿の内容、量等の制限は一切いたしませんが。御意見などは成るべく建設的であつてほしいと念願し、必ず編集部までは氏名を明らかにされたい事を附記します。

○次号の原稿〆切日は今月の二十日で、発行は八日上旬を予定しております。

＝豊作を祈りつつ＝
お田植風景

小林順治歌句集

二十六才にて早逝

「桑の中から小唄がもれる小唄聞きたや顔見たや」耳慣れた伊那節の傑作であるが、小林順治氏はこの作者である。

過日長野原の小林武男氏から「小林順治歌句集」を見せて頂いたのでこゝに紹介する事にした。

順治氏は武男氏の父鎌吉氏の弟で明治二十六年六月二十四日に生れ、大正八年二月六日に二十六才で早逝した。雅号は「薫葉」と云い現存すれば六十二才である。

この歌句集は順治氏死亡後鎌吉氏が昭和十五年秋に編集し、翌十六年二月謄写印刷して近親知己に頒布したものである。

短歌は明治四十三年（十八才）二七首、四十四年（十九才）九一首四十五年（二十才）八五首、大正二年（二十一才）二三首、大正七年（二十六才）三首、計二二八首であり、俳句は年代ぬきで一五一句があげてある。こゝに若干の作品を抜萃してみると、

寝すごせし六月の朝のものうさ
に似てもそよげるあかしあの花

この頃は悲しきことの多かりぬ
西瓜の花に夕の日のさす

耐えがたきことに耐え得て云ひ
がたきことを云ひ得て秋はすぎ
ぬる

いましばし倦怠の身をば壁によ
せ遠き都の空を想ひぬ

見てあればうれしきものゝみな
ぎりぬ十一月のあかつきの色

日ねもすを唄ひつづけて天地の
たえざるさまをよろこべるかな

思ひつかれまゝよ死ぬなれ老ゆ
るなれいやしきことも何ごとも
なし

自由をば欲りする心大島へ大島
へ行きたや伊豆の大島へ

いそがしきその束のまも眼に入
り椿のいろを心に思ふ

三月になれば麦生にかすかにも
露もつ里のあけぼのゝ色

哀しみのはてを思ひてたそがれ
の若草原をひとり歩ゆめる

きら／＼と光さしくる明るさは
山より野べにひろがりて行く

大空の青さを仰ぎ信濃てふ国に
一つの我を思へる

かくしだてさらになしとは云い
しかどやさしき君のかりそめの
恋

以上は作歌数の多い十九才二十才の作品から拾い出したのであるが総じて叙情的であり、感傷的な痛ましさを感ずるような歌が多い。然し純情であり素直であり無理がない。内面的な寂しさに悩みつゝ大きい光をあこがれている姿が誇張なく表現されている。同好者の一読をおすゝめする次第である

六月十六日　木下石治

竜丘の教育を想う

前校長　新井芳実

懐しい龍丘村の公民館報を毎月送つていたゞき、お村の発展のすがたが目の前に浮び、心温まるおもいで拝読しております。こゝに謹んで御礼申し上げます。

お村の皆様とお別れし、はや二ケ月を終ろうとしております。新しい環境にはいり、いかにこれに適応したらよいかという悩みで終つてしまいました。学校から送つてくださつた何枚かの記念の写真を折々出してみては、龍丘の教育を想いうかべております。

龍丘を去り身を龍丘の外において、今までのことを静かにふりかえつてみる時、龍丘のよいところ他にくらべてすぐれているところが、次々と想い出されます。わけてもこの学校教育の問題になりますと、私が御世話様になつた直接領域であるだけに、いつそう深いものが感じられます。

父兄参観日に、またおかあさん方の給食のお手伝いの日に、皆さんのお耳にしばしば入れた、あの子どもたちの放送の声を考えてみて下さい。あれだけの内容の放送を一ケ年間中断することなく、全校へ放送している学校は、県下にはおそらく少いだろうと思いますしかも施設は音を生命とする放送には、最も条件の悪い階段下を利用して、係の子どもが自由に機械を操作しております。

また自分達の学校は自分達の手で、できるだけとゝのえていこうとして、いつも計画しその計画にもとづいて年中活動している児童会各部のはたらき。友達の前でも先生の前でも、自分の思つていることを素直に発表し話し合える子どもたちの心情、慾をいえばつぎつぎと新しい要求は出てきますが他に勝るとも決して劣らない龍丘の姿だろうと信じます。お村の方方も大いに自信をもつて、子どもたちの成長のために御力添えあらんことを松本の地でお祈りいたしております。

私の学校も大学の附属学校という特別な使命をもつており、また市街地という条件もありまして、子どもたちの活動はなかなか活溌で、父兄の方々も子どもの教育に関しては、大へん熱心で積極的であります。父兄参観日は大部分の家庭の方々が見えられ担任教師と膝をつき合わせて懇談しております。普通の日でも二人や三人の父兄の教室に見えない日はないといつてもよいと思います。

明日は春の小運動会、心配していた天気も晴れあがり、校庭からはさかんに前日練習の子どもたちのはしやいだ声がきこえてきます

五月二十六日　松本にて

寛容たれ

小学校長　上沼光平

五年間御厄介になつた伊賀良村を去る時、木下敏範PTA会長さん（伊賀良村平和時計の専務、現在も続いてPTAの会長、私より一つ年下の方）と一夜ゆつくりと語る機会を得た。その折釈迦に説法かもしれないがと前置されて、「寛容たれ」という餞の言葉をいただいた。その時は若くから要職で苦労された木下さんの体験よりの実感のこもつた言葉として、一本やられたと思うとともに、私にはうつてつけのものであると感謝した。（辞書には寛容とは心広くしてよく衆をいれるとしるされている）言葉の意味から考えると、責任ある校長として事に処すべき態度を示されたと見るべきである

その後このことは、私一人にくださつた餞ではなくて、教育上は勿論のこと、村の生活においても人として生きるかぎり、お互が特に努力すべき何よりも大切なことだと考えさせられて来た。識者が寛容の失われた時代だとなげき、何とかして寛容な世の中にしなくてはと、次のような意味のことを語られたのである。「今の世の中は言葉は通ずるが、心の通じない味気ない世の中であつて、お互に信頼しあうことが出来ない。何とかして私達はお互に意見はちがつても、心の通じあえる世の中としどんなことがあつても、尊敬と信頼で結ばりあうおほらかな世の中としないことには、只々せまい所でのつきあつていて、お互に味気ないくらしをしなくてはならぬことになる」と。

その時の話の内容を適確にあらわすことは出来ないのであるが、以上の意味であつた。私には信頼しあつた会長さんからの餞としての「寛容たれ」ということが、これからの新しい時代の人間として生きていく為に、私たちが身につけなくてはならぬ大切な又根本的な資質であると思いなおした時に一層ありがたく感ぜられてくるとともに、お互は仕事がちがいこのみはちがつても通ずるものは通じ感じ得るものは感じ得られるものであることを体験して、「寛容たれ」という言葉の内容が私の心を一層ゆさぶるものとなつてきたのである。

まだ日が浅く学校の事だけを理解しつくすのにも容易なことではない。ましてや、公民館報に教育方針など公表することなどは出来ない。新任の挨拶としては時を失つているので、心にある一端を申したわけであります。

日々に努力すべき事に対して、一貫した勤勉を失い、たゞらくをして適当にに口先の理くつで処する傾向、従つて実力のない青少年となつていつてしまうという事も耳にします。教育上の問題は実に沢山あります。未熟なものではありますが、皆々様の御指導御援助によつて職責を果したいと思つております。

随想リレー

『農村の青年』

関島芳馨

次回のバトンを下平逸氏へ渡す

終戦になつて生れた村へ入れて貰い多くの人々に可愛がつて頂いてそこで一生暮す筈だつたのに、到々とび出して了つたことは、凡そ後悔とゆうことの嫌いな私にもさすがに一抹の淋しさを与える。

幸い新しい教職の仕事は、考えてみれば恐ろしい程責任の大きい性質のものだが、私としては青年のような感激で取組んでいけるので聊か自ら慰めている次第である。

まだ来た許りの私は随想のバトンを渡されて村のこともわからず名古屋にも一年生で没法子。そこで村と町を比べた感想でも答えたらと思つて館長さんに答えるわけである。

先ず職掌柄で教育予算のことであるが、こちらへ来てみてなる程村の先生方は容易でないと泌々感じた。当県は相当な黒字会計だし長野県は苦しいのだからとは思うけれども随分違うものだと思う。それにつけてもその苦しい予算で尚成果を上げておられるそちらの先生方の熱意と努力とは離れて眺めてみて今更乍ら尊いものだとも思い、又多分にPTAに喰込んでいるこちらの実情に比して村の姿に何か清純なものを感じている。又貧しい親子にとつては都市は実に無情なものだと思い知らされた。

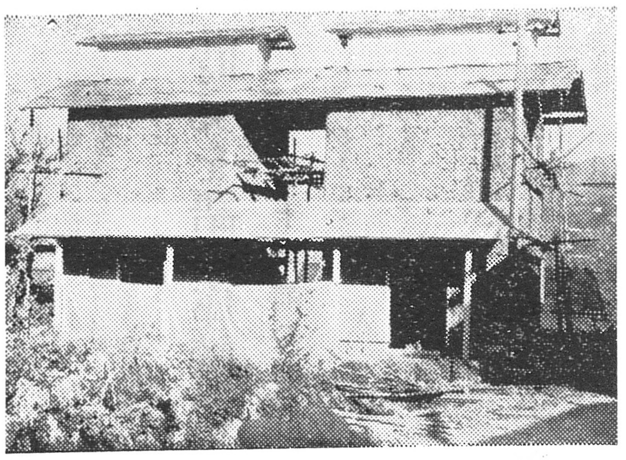
次に青年の環境を比べてみると私は近頃日本の筋金を新しく受継ぐ者は決してたゞ年齢的にいう青年（すべて）ではなくて、それは働く青年と農山漁村の自覚した青年だと思われてならない。というのは都市の青年は一般に服装態度物言い趣味等実にスマートであるが、それは概して消費的な人にみて貰うための軽薄な流行の臭いがする。彼等には国や民族の運命に参加する背骨とか力こぶといつた本質的な強さがどうも乏しいようだ。

近代文化を誇る建築や施設の中からこんなモヤシのような後継を育てゝ一体どうなるのかと思わざるを得ない。私は何も都市の青年をけなしてどうというわけでないのだが、農村の青年の与えられている環境に比べてみることも何かの足しになるかと思うのである。

まず辛い点から見ると農村は第一金が足らん、そして労働が激しいとゆうことだろう、殊に女子にとつては甚だひどい。又その周囲には封建性のよくない方の面の残さいが濃く残つている。青年が農村離脱する原因は大体ここにあるので、この因縁は社会の建前自体から直して行かねばならない難しいことだろうが、右の短所の反面に都市にないよい面があるのではなかろうか。というのは農村の青年はとにかく各人自らの経験を通じあらゆることをよく全体的な広さで感じ取つているということである。

都市の生活は一軒隣りの人ですら既に適確に判断することが難しい結局ものゝ判断は主観的に狭くなされるそして為政者の解説か近代的言論（新聞、ラジオ）を参考にするのが精々である。そこには恐る可き誤診が生ずる危険があるかさもなくば無関心かである。都会にデマや白昼犯罪が可能であり而もそれをいつのまにか常識的に認めてしまい、結局地に足のついたそして自分の眼で確かめるというやり方を忘れてしまうような還境なのである。都会の空は益々煤煙でくすぶつて行くと同様にその下にうごめく人間達もだんだん眼が曇つて行くようにみえる。

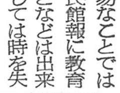
清爽は農村ではあらゆる出来事がよく見えるし、そこに住む人々の行いや考えはよくわかる。私は農村の青年にとつて何にもかえ難いこの還境は今日特に尊いものだとこの節時々思つている次第である。そういう私自身も生活の必要とそれから中国のことを少しでも教育の分野へ持込みたいという我欲からかく申す都市へ出て来たわけで撞着も甚しいといわれればそれ迄であるが故郷の館報へ送る私の随想は私なりに本心のつもりである。こちらに今日も雨に煤煙が混つて降つている。やがて梅雨も明けるだろう。信州に爽かな初夏が来る頃は一入と私はその清澄さを懐しむであろう。これが私の望郷のシムボルである。



〝完成近し〟

写真説明

先月号で煙草乾燥場の建築について御紹介いたしましたが、その後工事もはかどり御覧のの様な立派な建物が林のあちこちに見られる様になり火入れをする日も間近になりました。



映画への苦言

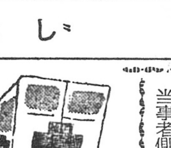
村映画ファン

上映に先立つて技手や部長がストーリイの解説をするのはどんなものでしようか。キャストの解説等少々は良いとしても、ストーリイの解説は先入観となつて、観賞上有害です。映画を観ればストーリイはよくわかるものであり、村民にはそれ程の理解能力のない者は少ない。これは何も小生の独断ではなくほとんどの映画評論家の定説であり飯島正の入門書にも書いてあります。青年学級で「映画の観方」を御勉強されている様だが、当事者側に注意を促したい。

会場に子供が大勢居るせいか、気分の高汐、同感の場面に合うと盛んに拍手が湧き起る。困つたものです。他人への迷惑この上もない事です。学校の映画教育が全然なつていない事を証拠立てる様なもので残念に思います。映画は選挙とは違うという事を大人も良く考え、会場観賞雰囲気をこわさない様に指導を望みたい。

公民館映画は社会教育の目的を持つているから作品に教育的または、道徳的色彩の濃い事は止むを得ないが、それを技手や部長にお説教されては困る。当事者はいい気持で結構と存じますが、これは一種の暴力であり聞く者にレジスタンを感じさせ、逆効果を生じます。たとえ公民館映画であろうと、映画であり説教の道具ではない、とやかく云わないでも観る者は程度の差こそあつても、感じるものは感じ、考えるべきものは考えているのです。その自然な状態を侵さない方がよろしい。

建設的な意見としては、上映後に批評会を開くことです。それは識者を中心に村民が自由に討論するのです。これは映画そのものの勉強になるばかりではなく小生の述べた不平を解決する良い方法だと思われます（桐林）



歯みがき粉

今村薫一

歯磨は毎日しかも朝晩二回も使うものであり、毎年六月四日に世間の人々に「歯を磨くように」と宣伝しているのであるが、歯磨とはいつたいどんなものだろうかと書物を見てもこのことについて記載してある本は稀である。

古代日本人と歯磨

日本で歯磨が文献にあらわれてくるのはずつと後世のことで我国の風習として「みそぎ」とゆうことが古くから行なわれていることより考えて歯磨に相当するものがあつたことが、想像される。

徳川時代に一般に使われるようになつた歯磨粉は桃山時代に大陸から来たらしく、このものゝ組成は房州砂を主成分としたものでこれに少量の「ハツカ」を加えたにすぎなかつたようだ。今日でも一部の人に愛用されているものに「千両はなべ塩」というのがある。殊に関西方面の人に愛用されているようだ。主成分は房州砂に炭酸カルシユーム、メンタ少量が入つている程度でたいして変つたものでもないようだが、使つて見るに砂が入つているせいか歯はとても綺麗になるようです。

今の歯磨

粉、練、半練、葉緑素入りと歯磨粉は多彩であるが、歯を清掃するとゆうことは昔も今も同じことである。唯品質が非常によくなつて来たことは若干の薬品が配合されているということにある。

葉緑素と「ハグサ」

葉緑素が配分される理由は歯槽膿漏の診療或は予防と口臭を除くということにありますので「クロロフリン」は未消血管を著明に拡大させる作用をもつていること。持続時間が非常に長く、血管組織に強い親和性をもつことである。そのほか強い抗アレルギー性を有することなどが明らかにされている。このような薬理作用からしてクロ・フイリンが、歯肉の栄養をよくして歯槽膿漏（特に初期）に有効であるといわれている。

何れにしましても良質のものを使うことです。粗悪品の砂の入つてるようなものは歯を傷つけるのでよくないと思う。

求人

一、勤め場所　時又信州冷凍有限会社
一、条件
　1、村内人で年令二十五才以下の男女
　2待遇等は会社と面談の上
一、希望者は役場社会課へ申し込まれたし。